

さいたま市長 4月定例記者会見

平成28年4月7日（木曜日）

午後1時30分開会

○ 進 行 定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。
それでは、記者クラブ幹事社の共同通信さん、進行をよろしくお願いたします。

○ 共同通信 4月の幹事社を務めます共同通信でございます。よろしくお願いたします。
それでは、本日の記者会見内容につきまして市長からご説明をお願いします。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。
あいにくの天気ですが、あす市立の小中学校の入学式、始業式を予定しておりますが、きょうは花散らしの雨にならなければと思っています。きのうから春の交通安全運動も始まっており、真新しいランドセルを背負った新1年生を街角で見かける時期ですが、安全に元気に登校してもらいたいと思います。

さいたま市でも323名の新規採用職員を迎えました。ことしも、地域を知る、またチーム力を高めることなどを狙いとしまして、見沼たんぼ周辺24キロメートルを踏破する新人研修を本日雨の中実施いたしております。一日も早く自身の仕事を理解し、市民一人ひとりのしあわせコーディネーターとして活躍してくれることを期待しています。

それでは、議題の説明に入らせていただきます。

議題1 「りすの家」の再開及びリニューアルオープン式典の開催について

本日の議題は、「りすの家」の再開及びリニューアルオープンの式典の開催についてご説明をさせていただきます。

雪害により休園をいたしておりました市民の森・見沼グリーンセンターの「りすの家」が復旧工事が完了し、再開をいたします。再開日は平成28年4月15日金曜日からでございます。午前10時から閉館は午後4時までとなっております。休館日は毎週月曜日、ただし休日に当たる場合はその

翌日になります。

再開後は、リスを新しい環境にならすため、当面の間は個人利用のみの入場とさせていただきます。団体利用の再開は5月10日火曜日からとなります。

今回リニューアルいたしました「りすの家」は、支柱高が12メートル、それから金網のネットを設置しております。面積は2,064.4平方メートル、工事費は約1億8,000万円弱の費用がかかりました。

この「りすの家」は平成9年7月にできまして、平成26年2月15日、大雪によりまして支柱と網が破損したことから、休園となっております。平成27年8月19日から復旧工事を開始いたしまして、平成28年3月25日に工事が完了いたしました。

これができ上がったイメージ、「りすの家」の完成イメージでございます。森の中に溶け込むように支柱の高さを以前よりも8メートルほど低くしております。施設内には樹木の中を通り抜ける散策路やせせらぎ池があり、より自然な姿のリスたちを見ることができるようになります。

再整備の主な内容でありますけれども、大きなケージの中にはリスを放し飼いにしております。リスと身近に触れ合うことができるようになります。

また、復旧に際しまして、単に現状を復旧するのではなく、外からの眺めをよくするために眺められるスペース、それから団体利用者の集合写真場所として利用できるようなエントランス広場を新たに整備させていただいております。

また、ふだん見えない土の中でリスがどのように活動しているのかを観察できるように、リスの巣穴を模した模型なども用意しております。また、リスの遊ぶ様子が見られるように、りすの遊び場も整備をいたしました。

リニューアルのオープン式典は5月3日午前9時45分から、市民の森・見沼グリーンセンターの「りすの家」エントランス広場で開催する予定です。当日は、私が主催者としてご挨拶を申し上げまして、来賓祝辞の後、テープカット、そしてイベントを行う予定です。

イベントにつきましては、大宮アルディージャのマスコット、アルディとミーヤが登場する予定になっております。また、式典後には先着100名

様に花の苗などを配布させていただく予定であります。

また、式典の当日の5月3日と4日には花と緑の祭典2016も開催されます。この施設で春の園芸まつり、それからシビックグリーンさいたま、また国際友好フェアがあわせて開催されますので、ぜひ足を運んでいただきまして、ゴールデンウィークのひとときを家族の皆さんとお楽しみいただきたいと思います。

私からの報告は以上でございます。

議題に関する質問

○ 共同通信

ありがとうございます。

幹事社から1点質問させていただきます。再整備で新たに変わった内容を幾つかご説明いただきましたが、市長として特に力を入れたといいますか、注目してほしい点というのは、もう少し詳しくお聞かせいただけますでしょうか。

○ 市長

この「りすの家」については、以前から大変たくさんの市民の皆さん、あるいはこの市民の森を訪れた皆さん、平成24年度のデータで約10万人近くの方々が来てくださっております。休園した後も大変たくさんの皆さんからお問い合わせがありましたけれども、その中で私たちとしては、よりリスを身近に見やすくすることと、団体で来られる方もたくさんいらっしゃるの、その場で写真が撮れたりできるような、そういった工夫を特にさせていただきまして、小さな子供たちにとって大変楽しみにされていた「りすの家」の再開でありますので、これまで以上に少し増強した形で復旧をさせていただいたということになります。

○ 共同通信

ありがとうございます。

その他各社から市長の説明内容についてご質問あればお願いします。

○ 埼玉新聞

埼玉新聞です。

この間は、大雪の被害で壊れてしまったということですが、今後また同程度の大雪が降ったときの対策みたいなものは講じているのでしょうか。

○ 市長

まず、網がかかっていますが、編み目が前回は15ミリという大きさだったんですが、これを40ミリに広げまして、雪がたまって残らないように固定荷重の軽減を行わせていただきました。

それから、もう一つは支柱の高さ。先ほども言いましたけれども、それ

までは20メートルあったのですけれども、これを8メートルほど下げまして、網の面積を少なくして、支柱にかかる過重を減らすとともに、支柱を5本にすることによりまして、1カ所当たりにかかる力、これを分散させることで雪への対策を強化をしたということになります。

○ 埼玉新聞 そうしますと、平成26年のはかなり記録的な豪雪でしたけれども、ああいうような雪があっても大丈夫な設計になっていると。

○ 市 長 そういうことです。

幹事社質問1：新年度にあたっての市政運営における目標や意気込みについて

幹事社質問2：北海道新幹線開業から半月経った活況の度合いや大宮駅を中心とした市内への影響について

○ 共同通信 それでは、幹事社からの質問に移らせていただきます。

幹事社から2点お伺いいたします。1点目は、新年度を迎えましたが、新年度にあたっての市政運営における目標や意気込みについてお伺いしたいと思います。

2点目ですが、北海道新幹線開業から半月程度が経過しましたが、活況の度合いや大宮駅を中心とした市内への影響について、ご所見があればお聞かせください。

○ 市 長 それでは、幹事社質問に順次お答えしていきたいと思います。

まず、1点目の今年度の市政運営における目標や意気込みについてであります。昨年度のさいたま市民意識調査の結果では、今住んでいる地域にこれからも住み続けたいという定住意向のお持ちの方が84.3%に上りまして、過去最高を記録いたしました。また、さいたま市を住みやすいと感じている方は82.9%に達しまして、調査を開始をいたしました平成19年度の74.0%から上昇傾向がずっと続いているということになります。この結果に満足することなく、さまざまな取組、またさいたま市が策定しておりますさまざまな計画を着実に実行しながら、2020年までに9割を超える市民の皆さんに住みやすい、あるいは住み続けたいと感じてもらえるようにしていくCS90運動を今年度も昨年度に続きまして全庁を挙げて取り組んでいきたいと考えております。

また、東日本の中枢都市として将来も成長発展していくために、先月大

臣決定されました首都圏広域地方計画に位置づけられました本市の役割をしっかりと、また着実に実施していきたいと考えております。そして、さいたま市のよさや強みであります教育、環境、健康、スポーツ、そして地理的な優位性であります交通網、交通の要衝ということ、それから災害への強さというものを徹底的に生かして、市民や企業から選ばれる都市の実現を目指して、施策を着実に、また強力に展開、推進していきたいと思っております。

それから、2点目の北海道新幹線開業から半月経ったということで、それらについての市内への影響という質問にお答えしたいと思います。

北海道新幹線の開通によりまして、新函館北斗駅まで最短で3時間38分で結ばれるなど、大宮駅の交通結節点としての利便性、あるいは重要性がさらに高まったと考えています。私も開通を心待ちにしておられました多くの皆様と一緒に一番列車を出迎えさせていただきました。開通したことの喜びとこれから多くの方々にこのさいたま市に立ち寄っていただきたいという思いがさらに強まったところでもあります。まだ開通して2週間程度でありますけれども、今後ますます利用者がふえていくものと期待しております。また、こうした交通の利便性の向上によりまして、東日本の中枢都市として人や企業から選ばれる都市へと本市の地位が上昇していくと考えております。

さらに、北海道新幹線の開通によって大宮駅周辺の地元の方々のまちづくりに対する機運醸成につながり、本市が推進しております大宮駅グランドセントラルステーション化構想の実現にも大きく寄与するものと期待をいたしているところであります。

それから、先ほども言いましたけれども、先日、国土交通大臣決定されました首都圏広域地方計画におきまして、大宮駅が東日本の玄関口ということで位置づけられました。北海道圏を初めとして各圏域が連携融合する対流拠点として位置づけられたということでありまして、市としてはこうした国のプロジェクトとして位置づけられたこと、そしてそれに基づいてさまざまな国の後押しが得られるということもありますので、この北海道新幹線の開通、また2020年のオリンピック・パラリンピックを大きなチャンスと捉えて、大宮駅のプレゼンス、存在感というものをさらに高め

て、本市の発展のエンジンとなるように、整備に向けて取り組んでいきたいと考えております。

以上です。

幹事社質問に関する質問

○ 共同通信

ありがとうございます。

1点、今のに関連してお聞きしたいんですけど、北海道新幹線開業後、利用状況についてはやや空席も平日はあるというような状況も伝えられておるかと思うんですけども、その辺に対する市長の評価といたしますか、現状の見方はどのようにごらんになっていますでしょうか。

○ 市長

現時点では、まだ北海道、札幌は少し寒いということもありますので、これからゴールデンウィークもあり、どんどん暖かくなって旅行しやすいシーズンになってくると思います。さらには新幹線で北海道へ行くことの行きやすさがもっと浸透してくれば、特にさいたま市あるいは埼玉県、北関東は今まで以上に利便性が高くなってくると思っておりますので、新幹線の利用はだんだんふえてくると思っております。

○ 共同通信

ありがとうございます。

代表質問の説明に関して、質問がある方は質問をお願いします。

○ 埼玉新聞

埼玉新聞です。

北海道新幹線についてお伺いしたいんですが、先ほど市長もおっしゃいましたように当日一番電車をお迎えになりましたが、その現場で感じた生の雰囲気から、どういったことを期待とか、そういうものを感じましたでしょうか。

○ 市長

一つは、一緒に出迎えてくれた人たちは地元の皆さんが多かったのですが、そういう意味では地元の皆さんの期待感も非常に大きいなということを改めて痛感いたしましたし、また新幹線で来られた方が大宮駅で下車をしていただいて、駅の外に出ていろいろな観光をしていただいたり、あるいは買い物をしていただいたり、あるいはまちを楽しんでいただくということについて、私たちとしてはより一層力を入れていくことが必要だろうと思っております。

もちろんさいたま市を一番の目的で来ていただくということも大切ですが、あわせて東京へ行く前の立ち寄りというような考え方も十分に

きると思っておりますので、いろいろな誘導しやすい環境づくりを、今後とも観光という視点や、あるいは新幹線の開通によって、北海道の皆さんも本州というか、東京に来やすくなるという面もあろうかと思っておりますので、そのことによっていろいろな地域同士の交流が生まれてくるだろうと思っております。

北陸新幹線の時には、思わぬ効果と言ったら失礼になるかもしれませんが、北陸新幹線ができたことによって東北地域の皆さんが大宮で乗りかえて北陸へ行かれることで、東北からのお客様が非常に多いというお話も聞いたことがございます。そういう意味では地方創生にとっても、地域間連携をしていく上で大変重要な役割を果たしてくれる路線ではないかと思っておりますので、それを私たちがどう活用していくのか、どう生かしていくのかということは、これから私たちもさらに知恵を絞りながら、さまざまな取組をやっていこうという決意を新たにしたところです。

○ 埼玉新聞 関連してもう一点お伺いしたいのですが、去年の北陸新幹線の場合は、観光の効果と同時に、どちらかというに関西圏だった北陸が東京圏、関東圏になるという大きな転換点になったということで、あとそういう意味で大宮にいろいろな事業所等が進出するチャンスということで、市のほうも働きかけ等をしたかと思うんですが、北海道新幹線については、今伺っていると主に観光のところで力を入れたいと考えていらっしゃるのかなと思うんですが、そういった経済界に対する働きかけ等は何か考えていらっしゃるでしょうか。

○ 市長 今後、観光協会あるいは商工会議所とも連携して、北海道、函館あるいは函館周辺の地方自治体とはもちろんですけれども、それだけではなくて、その途中の盛岡ですとか、あるいはそれぞれの県の主要な都市などの商工会議所などとももっと連携をして、経済的な結びつきをさらに強めていきたいと思っておりますし、できれば一度私たちも北海道新幹線でそれぞれの地域を訪れながら、昨年からはじめました東日本連携・創生フォーラムの開催をまた今年度も予定しておりますが、それらだけではなくて、いろいろなビジネスのマッチングのチャンスなども、相互にとってメリットがあるように交流を進めていきたいと思っております。

○ NHK 国の広域地方計画についてお伺いしたいんですけども、永田町でのシ

ンポジウムありまして、私も拝聴いたしました。その中でパネリストとして清水市長出られておられて、国もさいたま市、大宮という名前を出して、北の玄関口、鉄道であるとか、防災であるとかというようなこと、まさにプロジェクトに位置づけられているんですけども、いかんせんこの計画というのは10年近くの長い計画でありますので、市としては一番近々で、喫緊でやりたいこと、やらねばならないと思っていられる計画というのはどのあたりになるのでしょうか。

○ 市 長 幾つかありますけれども、これまでも進めてまいりました大宮駅周辺のまちづくりをまずしっかりやっていく必要があるだろうということで、大宮区役所の移転建てかえ、それから中央デパートのある一画であります大門町二丁目中地区の再開発事業、これらもおかげさまで今順調に進んでおりますので、そういった部分と、今MICEという視点から桜木の駐車場の跡地の活用についても検討させていただいておりますので、具体的にはまずそういったところのプロジェクトの推進からこういったものが組み込まれていくということになると思います。

また、今年度予算化もしておりますが、大宮駅グランドセントラルステーション化構想についての調査費も計上しておりますので、一つは大宮駅そのものの高度化の問題、それから駅周辺のアクセスの問題、それからまちづくりの問題、こういったのを総合的にしっかりと構想としてまとめ上げていくということについてもあわせてやる中で、せっかくこういう大きなチャンスをいただきましたので、それをしっかりと活用していこうと思っております。

それから計画の中でも、運命の10年プロジェクトということで位置づけられました。私たちも5年から10年がこれからのさいたま市が持続的な成長を続けられるかどうかがかかった期間であると認識をしておりますので、そういう意味ではゆっくりというよりは、むしろスピード感というものもしっかりと意識して進めていきたいと思っております。

○ NHK 新都心のあたりについて考えていらっしゃるごことがありますか。

○ 市 長 新都心についても今進めておりますのが、約1ヘクタールのもので防災公園をつくって整備をしていくというのが1つと、それから長距離バスターミナルの設置についても検討を進めておりますので、そこに陸のまた違っ

た意味での交通拠点ができる。私たちにとっては、交通拠点をたくさんさいたま市につなげていくことが、持続可能な発展につながっていくと思っておりますので、そういったプロジェクトについても着実に進めていきたいと思っております。

○ 埼玉新聞

埼玉新聞と申します。

新幹線の関連でちょっと幾つか追加なんですけども、ぜひさいたまへということで広域連携を清水市長呼びかけていらっしゃるのですけれども、こちらから東北あるいは北海道の市町村に、沿線に出かけて行って、市長みずからトップセールスですとか、さいたまを売り込んでいこうという、そういうお考えはありますでしょうか。

○ 市長

時期はまだ未定ですけれども、なるべく早目に幾つかの自治体、函館はその一つに当然なと思っておりますけれども、あと周辺の東北等の自治体についても回っていきたいと思っております。

○ 埼玉新聞

関連してなんですけれども、去年の3月の記者会見で、北陸新幹線開通のときに、市長できるだけ早くこれに乗って、北陸3県トップセールスに回りたいという旨おっしゃっていたんですけど、この1年間でそのあたりにつきましては何か成果はございましたでしょうか。

○ 市長

その後、金沢、それから高岡市なども訪問させていただきましたし、担当のほうでも東日本連携・創生フォーラムに当たって、基本的にはそれぞれ足で回って、その連携フォーラムの重要性のお話をし、呼びかけてきた経緯がございます。今回もそのフォーラムが終わった後についても、そういったことをあわせてやっておりますので、やはり今後密なコミュニケーションというのも重要であろうと思っておりますし、その中で、いろいろな形での経済、観光等々、いろいろな分野での地域間での連携交流というのが大変重要になると思っております。

また、私たちは駅を通じて、そういう対流拠点という位置づけをしていただきましたので、今後ともハードができて、できていないにかかわらず、しっかりとそういったコミュニケーションや交流や連携ということを、事業としてだけではなくて、いろいろな形で進めていきたいと思っております。

その他：交通政策審議会の答申（案）について

- 共同通信 ほかによろしいでしょうか。
それでは、そのほかの事項について質問がある方はお願いします。
- 朝日新聞 朝日新聞と申します。
本日まだ正式にさいたま市のほうに届いているかわからないんですけど、国交省の審議会の答申のほうで、地下鉄延伸の答申が出る見込みで、既に一部報道ではさいたま市の関連でも、東西ルート、7号線であるとか、埼玉高速鉄道線の延伸などについて意義があるというコメントがつくだろうと報道がありますけれども、それについての受けとめをお願いいたします。
- 市長 交通政策審議会については、本日の夕方に東京圏における今後の都市鉄道のあり方に関する小委員会におきまして次期答申案が議論されると伺っております。具体的な答申案を拝見しておりませんのでコメントすることはできませんけれども、本市からは今お話ありました地下鉄7号線の延伸、それから東西交通大宮ルートの新設、それから大宮駅の機能の高度化、この3つの事業を提案して、ご審議をいただいていることから、これらの事業が答申に位置づけをしていただくということを期待しております。
それから、今後については答申案を確認した上で、対応についてはまた考えていきたいと思っております。
- 朝日新聞 当然答申を見てからということになるんですけど、財政面の課題については引き続き以前から続いている問題だと思いますが、その点に関してはいかがでしょうか。
- 市長 財政面、事業性等についてはまさに大変重要な視点であると認識しておりますし、私たちもそういったことをしっかりとクリアしていかなければ実現ということにはつながっていかないと思っております。そういう意味では、地下鉄7号線については43の方策も含めて、浦和駅東部から岩槻にかけてのまちづくりを私たちとしては充実させていこうと。特に浦和東部地区、それから岩槻駅周辺、この2つはさいたま市としても副都心という位置づけをしているエリアにもなりますので、そういったまちづくりについてより一層検討を進めながら、あわせて地下鉄7号線の実現、また重要性が高まるということにつなげていきたいと思っております。
- 朝日新聞 最後に1点。先ほどの一番最初の新年度の目標というか、そのあたりでも交通のことについて触れられておられましたが、当然東京五輪も視野に

入れた、この鉄道の延伸計画になってくると思います。改めてなんですけれども、延伸を目指す意義はどのように受けとめていらっしゃるのかお願いいたします。

- 市長 やはり交通網の充実ということについては、さいたま市がこれまで発展してきた一つの大変大きな強みであり、さいたま市自身の優位性であると思っております。この交通網の優位性、これは鉄道、それから道路網、大きくはこの2つの要素、それからもう一つあえていうならば空港ということもあると思いますけれども、そういった交通の利便性、あるいは結節性を高めていくということが、このオリンピックまでというよりは、オリンピック後のさいたま市を考えたときにも、持続可能な成長をしていくための大変重要な要素であると考えております。

これは、多くの方々から選んでいただくためにも、あるいは企業が進出をしたい、企業から選ばれる都市になるためにも大変大きな、また重要な要素であると思っておりますので、この辺については長期的な視点も含めてしっかりと、また着実に進めていきたいと思っております。

- 埼玉新聞 埼玉新聞です。

地下鉄7号線に関して私からもお伺いしたいんですが、市長はたしか3年前だったと思うんですが、5年後をめどに事業着手を目指したいということおっしゃったと思うんですが、今回答申が正式にどう出るかは夕方にならないとわからないんですが、前向きな内容の答申が出た場合、そのスケジュールについてはどうでしょうか、早まるとか遅くなるとか、その影響等はあるのでしょうか。

- 市長 まずは答申を見てみないとわかりませんので、報道ですと、課題点なども指摘されているというような報道もございますので、そういったことなども十分踏まえて対応していかなくてはいけないということになると思います。

- 埼玉新聞 じゃ、現時点では、もう既に表明されているスケジュール感で進めていく方向というのは変わらないということでしょうか。

- 市長 基本的にはそういう考え方です。7号線については以前からお話をしているとおり、もはや計画の段階から実行の段階に入っていると私たちは既に申し上げております。ただ、正式にいろいろな形で取り組んでいます

けれども、最終的に着工という一つの目安が、5年ぐらいを一つの目安にしたいということで申し上げてきましたけれども、いずれにしても課題をクリアしないとこれは延伸ができませんので、私たちとしては浦和東部から岩槻、この沿線、副都心としてしっかりとまちづくりを行っていくということが、7号線の延伸というよりは、東部地区の全体のまちとしての発展ということにもつながってくるし、また首都圏全体を考えたときにも、災害上も非常に強い路線でもあるということが証明されましたので、そういった視点からも、広域的な視点でも有用であるという認識のもとに進めておりますので、それを着実に基本的には進めていくという考え方は、基本的には変わっていません。

その他：市民活動サポートセンターについて

○ 共同通信

よろしいでしょうか。

○ 埼玉新聞

埼玉新聞でございます。

市民活動サポートセンターについてお伺いいたします。4月1日から市直営ということで移行になりまして1週間がたちましたが、ロッカーですとかメールボックスの使用の申し込みも終わりました、受け付けも行われまして正式にスタートしたということですが、これまでのところの直営化の移行ですとか現在の状況、どういうふうに行われているかという概要について教えていただけますでしょうか。

○ 市長

まだ1週間ぐらいですので、対応などふなれな部分もございますが、これまでのところ大きな混乱もなく運営できていると聞いております。ただ、直営に伴う作業によりまして一部印刷機器でありますとか市民利用の端末が、一部機器の設置がリース契約の関係などもあって遅れが生じているということで、ご利用の方々にご迷惑をかけている部分もございます。ただ、運営そのものについては大きな混乱もなく、現状としては運営されていると聞いております。

いずれにいたしましても、今後しっかりと管理運営を、市民の皆さんに利用していただきやすい環境づくりにしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

○ 埼玉新聞

再び再指定管理化に向けてのロードマップですとか決意とか、そういうものは何かありますでしょうか。

○ 市長 基本的には、今後利用者懇談会であるとか運営協議会という、いわゆる市民協働型の運営組織を設置して、協働管理運営体制については維持していこうと考えております。その中で、課題でありました利用に当たってのルール化などもできるだけ早く進めていながら、そういった指定管理の体制ができやすい、できるように準備といいますか、やれる体制をしっかりとつくっていきたいと思っております。

○ 埼玉新聞 体制づくりのめどですとか期間というのは、何かございますでしょうか。

○ 市長 まだ何とも言えませんが、指定管理者の募集などの問題もありますので、順調に早くいけば2年ないし、3年以内にはそういった体制になれるように、努力はしていきたいと思っております。

その他：朝霞市女子中学生監禁事件を受けて、子どもの安全について

○ 共同通信 よろしいでしょうか。

○ 埼玉新聞 埼玉新聞です。

子供の安全を守ることにしてお伺いします。先日、朝霞で2年前に行方不明になっていた女子中学生が、監禁されていた男のどこから逃げて保護されて事件が明るみに出ました。これから、先ほども市長もおっしゃいましたように新入学の時期で、新しいお子さんたちが学校に入ってくるという中で、市としてそういう子どもたちの安全を守るための取り組みというのは、この事件を受けて何か新たに追加するとか、強化するとかあるのでしょうか。そういうのがあるようでしたら教えてください。

○ 市長 さいたま市としては、これまでも一つは学校安全ネットワークをつくって、保護者の皆さん、あるいは地域の皆さんの多大なご協力をいただいて、3万人近い（約17,300人（平成27年度当初）の）ボランティアに登録をいただいて、そして学校の周辺だけではなくて、通学路も含めていろいろな形で皆さんにパトロールをしていただいたり、あるいは子供たちが安全に通学していただくためのいろいろな努力が、ここずっと続いている状況がございます。

そういったことを、今回を機会にまた充実をしていくということはもちろんですけれども、あとは学校の中に入りにくくしようということで、防犯カメラであるとか、いろいろな対策もこれまで打ってきておりますので、

それらをしっかりと進めていくということが1つと、あと3月24日に、セーフコミュニティということもさいたま市として取り組むことを宣言いたしました。そういった子供たちを単に犯罪から守るということだけではなくて、そういったさまざまなけがであるとか、事故であるとか、あるいは自殺であるとか、そういったことも含めて総合的に、さいたま市としては安全なまちづくりということを強化をしていきたいと考えておりまして、セーフコミュニティの認証を受けるためのキックオフ宣言をさせていただきました。そういったこともあわせてやりながら、何といたっても子供たちが安全に過ごすことができる、そういう環境づくりを行政と市民の皆さんと事業者の皆さんと、しっかりとタッグを組んで、より強固なものにしていくということが大変重要だと思っておりますので、引き続きそういったことを強化していきたいと思っております。

その他：さいたま国際マラソンについて

○ 埼玉新聞

埼玉新聞と申します。

さいたま国際マラソンについてお伺いいたします。先ほど、今月14日に組織委員会、実行委員会が行われることになっておりまして、大会の日程ですとか競技部門、大会要綱、新コース案などを審議した後に発表されるということになっております。改めまして、さいたま市としましてこの国際マラソンの開催に向けての思いですとか、意義ですとか、このあたりについてお伺いできればと思います。

○ 市長

14日の組織委員会を経た上で、正式に皆様に発表させていただくという形になるかと思いますが、いよいよ2回目を迎えるさいたま国際マラソンであります。1回目についてはフルマラソン化をする、あるいは市民の皆さんに告知をする期間が短かったというようなこともございましたけれども、2回目はより一層市民の皆さんに愛され、また親しまれる大会にしていきたい。あわせて、女子のエリートレースということでもありますので、そういった2つのよさをうまく融合させたマラソンとして、マラソンを初めとしたスポーツの振興、それから健康への意識の啓発、さらにはマラソンというイベントを通じて経済、地域の活性化、こういったものに私たちとしてはつなげていきたいと思っております。

そういう意味では、この2回目が大変重要な大会になると思っております。

すので、市民の皆さんの参加や、あるいはより魅力的なイベントになるように、今後もしっかりと努力をしていきたいと思っております。

- 埼玉新聞 市長ご自身の決意のようなものはございますか。
- 市長 もしフルマラソンの制限時間がある程度延びるようであれば、さいたまシティマラソンのハーフマラソンのときには、4回ほど出場して4回ともおおむね完走ができましたので、できれば市民の皆さんと一緒に走りたいという思いは持っております。
- 埼玉新聞 参加をされるということですね。
- 市長 はい。
- 共同通信 よろしいでしょうか。
それでは、どうもありがとうございました。以上をもちまして本日の記者からの質問を終了させていただきます。
- 進行 以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。
次回の開催は4月21日木曜日、1時半からを予定しておりますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

午後2時11分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。